

第1回生駒市総合計画審議会第三部会

第1回 生駒市総合計画審議会第三部会

1 日時 平成27年7月13日（月）14：00～

2 場所 生駒市役所 3階 302・303会議室

3 出席者

（委員） 加藤委員、幸元委員、梶井委員、村上委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課長補佐、

岡村企画政策課企画係長 松尾企画政策課係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

（1）部会長選出

【事務局】 まず、議事に入る前に、部会長の選出をお願いしたい。部会長は、生駒市総合計画審議会条例第7条第3項の規定により、委員の互選で選出している。どなたか御意見をいただけますでしょうか。

【幸元委員】 加藤先生をお願いしたいと思います。

【事務局】 加藤先生というお声をいただいたが、お願いできますでしょうか。

【加藤部会長】 では、お引き受けさせていただきます。

（異議なし）

【事務局】 それでは、部会長には加藤委員に御就任いただきます。恐れ入りますが、一言御挨拶をいただきたいと思います。

【加藤部会長】 では、御指名いただきました加藤でございます。よろしくお願ひいたします。

生駒は、奈良県の中では本当によく取り組まれている市の1つであると思う。総合計画のもとに、私たち市民の声も聞きながら進めていくという形で、今回も3回にわたって、各項目についての進捗度等を検討していきたいと思っているので、よろしくお願ひいたします。

今、特に児童を見ていると、家族の形態が非常に変動している。それゆえ、子育て支援からきっちりと支援をしていくということが本当に大事であり、教育に関しても様々な問題が起こっているが、家族と社会とが一緒

になって子育てをしっかりと見ていき、そして、やがて親になった子どもが社会と子育てを一緒にやっていく、そういうことが必要な時代に突入しているのかもしれない。時代の変革の波はここしばらく続くのでは、と思っている。そういった意味では、総合計画のようなきっちりとした計画の中で、方針等をどう立てていくのかということも非常に大事な事業だと感じている。

今日は委員のメンバーが新しくなったので、1分ぐらいでお名前と思いい等何か一言、お話しいただければありがたい。よろしくお願いします。

【梶井委員】 梶井憲子と申します。どうぞよろしくお願いします。今回で4回目、4年目になるかと思う。「生涯学習推進連絡会」というところから来させていただいている。「子ども会育成連絡協議会」にも入っており、子育てや青少年の育成事業等に取り組んでいるので、それらの分野で頑張りたい。よろしくお願いします。

【村上委員】 公募市民で、今回初めてお世話になる村上一美と申します。どうぞよろしくお願いします。何分、私は当市に引っ越して来てまだ5年余りなので、このような場に参加するのが初めてであるということや、新入りだということとんちんかんな質問をしてしまうかもしれないが、どうぞよろしくお願いします。

【加藤部会長】 いえいえ。生駒に来て5年といたら、もう大体分かっておられるのでは。

【村上委員】 いえ、ただ、小さい子どもはもうおらず、どちらかという、老人介護の域に入っている、まだ分かっていないかなと思っている。

【加藤部会長】 いえいえ。福祉トータルでいくので、よろしくお願いします。

【幸元委員】 民生児童委員連合会の幸元です。よろしくお願いします。民生委員としては大方20年近くにはなるが、まだまだ勉強不足で、こうして総合計画審議会委員などいろんな制度も拝見しながら、「ああ、知らんこと多いな」、「勉強がちょっと足りてないな」というのを痛感している。第1回全体会の際の自己紹介でも述べたとおり、自分の住んでいるまちのことをしっかりと見て、しっかりと考えて、これからを担っていく子どもたちにいいものをいい形で引き継いでいけたらなという、そんな思いでいる。ど

うかよろしくお願いたします。

(2) 各分野の検証

①No. 211 母子保健

【加藤部会長】 母子保健は、お一人から提出されていた質問があった。これは梶井委員からですよ。

【梶井委員】 No. 211母子保健の「行政の4年間の主な取り組み」のところの一番下の部分に「検証中」とあったのだが、何も書かれていないと分からないなど思って聞いた。

【加藤部会長】 これは、「相談支援センターを設置した」ということで、設置をして、今、障がい福祉課で取り組んでいるということですので了解してよいか。具体的な取組等についてはまた、障がい福祉の方で何かコメントがあるのだろうか。

【事務局】 当初この検証シート作成が大変遅れてしまい申し分けなかったのだが、中でも障がい福祉課の記述が少し遅れてしまっており、「検証中」ということで一旦送らせていただいた次第である。

【加藤部会長】 では、進捗度ということで、一番目にまちづくりの基本施策が、大綱として「4年後のまち」①と②という形で目標になっている。パートナーや妊娠に対して安心を持ち妊娠・出産に臨める妊婦が増えている、そして、健診をちゃんと利用することで子どもが健康ですくすく育っている。これらが目指す「4年後のまち」の姿である。また、二番目に指標が3つある。妊娠届がどのぐらいなされているのか、新生児・乳児訪問がどのぐらいなされているのか、それから、健診受診率。これらの意味というのは、やはり妊娠届をちゃんと出して、母親自身が、子どもを無事に産む準備ができているということを行政としても取り組んでいるかということである。それから、指標2の新生児・乳児訪問実施率、これも、やはり育児不安の高い人はいるので、早くに健全育成支援ができているのか、そして、健診受診率はどうかということで、これも子どもが育つときにきちんと健診ができているのかどうか、それを行政が応援できているのかということを表す。実績率は、いずれも90%以上を超えている。これは、全市、全国の平均

値から見ても高く、高く評価できる。

3番目は「市民の役割」で、「市民もちゃんと努力をしていますか」という設問である。評価としては64.0点。「余り取り組んでいない」という、この件数は何だろうか。これは、もう子育てを終わっている人で、自分が今はもう余り直接子育てにかかわってないので「取り組んでいない」というふうな回答なのだろうか。

4番目の行政の「4年間の取り組み」は、項目ごとに具体的な事業等がまとまっている。取り組み②2「疾病の早期発見、早期治療、療育などを行うため、乳幼児健康診査を実施します」の児健診について、3カ月、7カ月、12カ月、1歳6カ月、3歳6カ月健診を実施ということだが、保健センターで行う集団検診は、1歳6カ月のときか。

【事務局】 はい。

【加藤部会長】 その他の健診は病院に行って医師に聞くということになっている。だが、ほかの都市では、4カ月・10カ月健診も保健センターが担っている。やはり早目に子どもの状態を知るには、本当は4カ月・10カ月のときに把握すればよいのだが、医師のところで「問題ない」というふうにしてしまうと、なかなか発見できにくいということがある。そのために4カ月の子どもがいる家を訪問する「赤ちゃん訪問」ができたが、それがちゃんと機能して保健所に子どもの情報等が伝わるようになっているのだろうか。実態がどうなっていて、将来の展望として4カ月・10カ月健診を導入するのか、また、健診を将来的に健康保健センターに移行するのか、開業医レベルでずっとやっていくのか、それらの部分についてどうなっているか知りたい。

【事務局】 先ほどの集団健診について、今、本市で実施しているのは1歳6カ月の集団健診である。

【加藤部会長】 ということは、4カ月、10カ月、それから、3歳児というのは開業医の方に委ねられている。3歳児健診も、「発達がゆっくりかもしれない」という子どもに対して、1歳半からの情報を繋いで3歳児になったときの発達の遅れの有無について、本当は医師よりも保健センターの方が把握しやすい。開業医との連携度によって把握状況が変わってくる可能性もある。

【事務局】 健康課では、今現在、1歳6カ月の集団健診での健診結果等を、3歳児のときにかかりつけ医に伝達している。

【加藤部会長】 保健センターから医師へ知らせる必要がある、ということか。

【事務局】 そうですね。伝達方法や情報の記録方法についても工夫が必要なので、現在取組んでいる。

【加藤部会長】 ただ、難しいのは、例えば他市から生駒市へやってきた3歳前の子どもについて「ちょっとこの子、気になるよね」となったときに、一旦、保健センターから医師に言わねばならないという煩雑さがある。また、健診をずっと医師が担っている場合、動線がいろいろと引かれないといけないという煩雑さが出てくる。大体の小児科医の意識は高いと思うが、人によって意識の高低があるとすれば、全ての小児科医が保健センターから伝えられた情報をきっちりと把握しているのか、という部分が課題になっていくだろう。今、転居が割と多くなってきている。ゆえに、転入してきた子どもに対する保健センターから医師への報告・医師の的確な情報把握がスムーズにできているかどうかについて、検討したほうがよいと思う。

5番目の「分野全体の進捗状況では、行政は「B：4年後のまちが概ね実現されている」と進捗度を評価している。委員の中では、村上委員が「C：そこそこ実現されている」と評価している。いかがでしょうか。

【村上委員】 子育ても終え、現在の行政の子どもに対する取組についてあまり把握できておらず、「まだまだよりよい市になれる」という伸び代を見たつもりでCにした。また、他市では職員等が、親と子の様子を見に来てくれたり、自宅でどういう保育をしているか、育児放棄をしていないか、虐待をしていないかを把握するような感じで個人宅を訪問してくれたという話を聞いたことがある。生駒市はそのような取組はどうなっているのかなと思い、分からなかったのがCにしてしまった。

【加藤部会長】 なるほど。生駒市では「こんにちは赤ちゃん事業」があり、それから、1歳半のときに気になるという子どもについても保健師が適宜訪問を行っている。ただ、3歳児健診は医師が行うので、保健所と共有すべき情報が抜けてしまう可能性がある。連絡を密に行っている病院では大丈夫だと思うが、保育所や幼稚園に通っていない無所属の子どもは様子・状態等を

把握しにくい。保育所や幼稚園へ行っているとかなり子どもの情報も入り、民生児童委員の主任児童委員に子どもの様子・状態等について「やっぱり気になるよ」と言っていたらニュースは入ってくる。だが、それ以外は医師のもとへ行かない限り、空白になってしまう。なので、そういった意味では気になるところで、いい御指摘だと思う。

【幸元委員】 行政の主な取組状況の書き方について、行った取組を追跡したその後の結果が記入されていないので、判断を少し迷った。しかし、総体的かつ、項目をいろいろ拝見し、私の個人的な評価としては、目指す4年後のまれの姿が概ね実現しているのかな、目指す姿に近づいているのかなと判断させてもらった。とはいえ、例えば3歳児健診の場合、近年の園児数増加を考えると集団健診に来ていない園児をこのまま見過ごしていいのだろうか、と感じる。

【加藤部会長】 これは、生駒市は医師が3歳児健診を行っているので、どうしても受診率が低くなってしまう。

【幸元委員】 そうなると、「減少している」で済ませ、追跡されていないことが少々気になる。

また、検証シートには「要対協（要保護児童対策地域協議会）へ連絡した」と書いているが、恐らく関係者連絡会議が行われているのは何カ月かに1回なのではないだろうか。このように、あくまでも予想・想像の話で審議会委員としての進捗度を判断せざるを得ない部分が出てきてしまうので、行政側の検証状況・取組状況をより詳細に記入してもらえると、もっと判断がしやすかったのでは、と思う。

【加藤部会長】 確か前日も3歳児の健診率が低かったので、私も気にはなっている。集団健診でないと、どうしても受診率が低くなる。「ええやんか」とスルーしてしまってよいことではない。なので、なぜ3歳児の集団健診がなされていないのか、あるいは集団健診をしない上でどんな工夫をしているのか、保健所と医師をどのような方法で繋げて3歳児健診をやっているのか、という部分はさらに検討を要する。

ただ、村上委員が先ほど伸び代の話をして下さったように、課題はあるにしても様々な取組・対策を4年後に向けて行政が行っているという意味

では、評価Bでよいか。

(異議なし)

②No. 212 保育サービス

【加藤部会長】 4年後のまちの平均評価は56.6点。指標は2つあり、待機児数は、目指す値が10人に対し実績値68人。それから、一時預かり保育の延べ利用児童は、目指す値6,700人に対し、実施値が6,610人ということで、ほぼ目標値に近い中で利用されている。これは、育児の負担軽減として機能しているところもある。それから、市民の役割分担は43.5点。行政の4年間の取組みの部分では、こども課等様々な課が関わっていると聞いている。

進捗状況の最終評価は、一部指標が目標値に達していないこと、ひとり親のニーズに応えられなかったとこと等があったが、病児保育等はほぼニーズに対応することができたということが記述されている。しかし、待機児問題が大きく影響しているので、「目指す4年後のまちがそこそこ実現されている」C評価となっている。

この分野について、お一人から提出されていた質問があった。

【梶井委員】 「市民の役割分担における『保育料を負担していますか』という問いに対する、『全く取り組んでいない』という回答はどういう解釈をすればよいか」という質問をし、「市民税非課税世帯は保育料がかからないため『全く取り組んでいない』との回答になったと推測される」と回答をいただいた。

また、「待機児童解消に当たり、どのような取り組みがあればいいのか」という質問をした。「分野全体の進捗状況」の「進捗度の理由」において、昨年も「保育ニーズの掘り起こしが影響して待機児童の解消が予定どおりに進まなかった」というほぼ同じような内容が書かれてあったので、それに対して、「去年1年間、何か取り組まれたのかな」ということで新たな取り組みについて質問した。

【加藤部会長】 本年度中に120定員の保育所を1カ所、10人前後定員の小規模保育所1カ所を整備予定。さらに、現在、新たに小規模保育所1カ所、事業所

内保育所2カ所を協議中であるとの回答を頂いている。少し受け入れ定員を増やす予定であるということによろしいか。

ほかに何か御質問等は。

【梶井委員】 質問というか、もうひと頑張りしていただきたいと思う箇所がある。離婚等により「ひとり親家庭」となった方が、子どもを預けたいのに預けることができない、しかし働かないといけない、という状況になったときに、預けるところがないというのは非常に困ると思う。それと、4月を過ぎて生駒に転入してきた人が子どもを預けられないので仕事に行けず生活に困ったり、生駒市への転入自体を躊躇してしまったりするのではないだろうか。なので、数名の一時的受け入れ枠を園で設けてはいかがだろうか。

【事務局】 定員どおりにお子さんを預かっている以上、もう余裕がない。故に、今はもう「保育所を新たに造っていく」ということしか手がない。

入所は点数制で選考しているが、全員同じ横並びの点数で抽せんということではなく、保育所に優先的に入所すべき状況の方・保育の必要性の度合いの高い方については加点があるため入所しやすくなっている。ただし、途中転入者の場合はやはり難しい。

【梶井委員】 転入の方も、ひとり親になられる方も、途中入所となってしまう場合が多いのではないだろうか。

【事務局】 途中入所できるのは、定員に空きがあるときだけになっていて、なかなか難しいところである。

【梶井委員】 そういうケースもあるということをご考慮していただければ、と思う。

【加藤部会長】 緊急保育等や途中入所をどのようなことに配慮しながら行うのかということや、途中から入所してきた子どもに対しどのようなことを考えるのかなど、やはり難しい部分もある。ただ、すぐに保護者が働かねばならないとき、子どもの面倒を見る人が誰もいないときにどうするかという部分は要検討である。

現在、延長保育や一時保育や障がい児保育等、いろいろ増えてきている。だが、途中入所・働かねばならないひとり親への配慮、そういった事情のある子どもへの配慮等、ニーズが多様化している中でそれらについて考えていく必要があるかもしれない。そういった意味では、もう少し頑張っ

いただきたいということでC評価とする。

(異議なし)

③No. 222 学校教育

【加藤部会長】 この分野での「学校」という言葉の意味は小学校・中学校の両方であると解釈してよかったか。

【事務局】 はい、そうです。

【加藤部会長】 目指す4年後のまちに対する市民実感度は、①学ぶことができる環境調整が64.4点、②心の教育の充実が53.5点、そして、③市民に開かれた学校づくりが58.5点。

次に、指標が3つ。教育相談等の件数は目指す値2,980件に対し実績が3,401件で、当初予定より伸びている。それだけニーズが高まっているということかもしれない。それから、1日30分以上読書している児童生徒の割合は、目指す値が34.0%、実績値が33%。そして、その次が学校創造推進事業の回数は、目指す値が1,603回で、実績が1,700回。

それから、「市民の役割」は子どもたちの見守り活動についてで、27.4点。これは低いですが、なぜか。

【事務局】 「全く取り組んでいない」という回答の比率が多い。見守り活動は保護者でなくとも取り組めることなので、「該当しない」という選択肢は設けなかった。しかし、例えば高齢者等が「該当しない」ということで「全く取り組んでいない」と回答したと考えられる。

【加藤部会長】 成る程。これはなかなか解釈が難しいかもしれない。

行政の4年間の主な取り組みは、小学校別、中学校別ということではなく、トータルでまとめて行っているのか。

【事務局】 はい。

【加藤部会長】 小学校・中学校や年齢別で違う部分もあるが、検証シートでは、トータルで取組の進捗状況が記入されているということだろうか。主な取組の全体を見ると、建物の環境、いじめのことや相談、勉強での図書館利用等、それらを含めた形で書いてあると思う。

一人一人個別にサポートする少人数学級編制がなされていることや、耐震事業も終え、トイレや老朽化も改善されている等、様々な工夫がされてきたようである。それから、支援体制も整えられているということで、全体的な進捗状況としてはB評価となっている。

少人数学級編成は、生駒の場合は何人か。

【事務局】 30人。小学校は1年、2年。

【加藤部会長】 最近いじめ問題やいじめによる自殺が話題になっているが、校長・教頭・生徒指導や養護教諭がきちんと交流を行い、連携が組めているかどうか非常に重要となる。生駒市は少人数学級編成に加えて、日頃からの教員ネットワークもちゃんとできているであろうとは思っているのだが、実際はどのようなになっているのか。

【事務局】 しっかりと取り組んでいると思う。

【幸元委員】 すみません。話は変わるが、目指す「4年後のまち」②に「子どもの個性や自己有用感」と書かれており、指標では学校創造推進事業の実施回数が見されていて説明文にも「植物栽培・動物飼育等をして命の教育を行います」と書かれている。

また、部会長がおっしゃったいじめ問題にも関連することだが、自分自身や自分の存在を大切に「心の教育」というのは非常に強く意識してほしいと、常々思っている。自分を大切に、自分の存在感が自分で意識できれば、他人にも当然優しくできるだろう。

ゆえに、子どもの個性と自己有用感、学校創造推進事業である命の教育、この二つが「4年後のまち」において一くくりになっているのは、少し違うのではないかと思う。これら二つを分けていただくと、よりきめ細かな子どもへの教育というものができていくのではないだろうか。指標評価もトータルで行われているが、一つずつ評価・分析を行う等もう少し細分化して欲しい。

【加藤部会長】 個人的にも関心のある事柄だが、教員側には「子どもの個性・自己有用感・自他の生命尊重意識を伸ばす教育を行う」という進捗判断基準となるものがある。しかし、自分の存在・自己有用感についてどう思っているかを子ども自身に考えさせたり、子どもの意見・声を聞いたりするという取

組みが記載されていない。なので、子どもの声を聞けるような取組みを行っているなら記載して欲しい。

【梶井委員】 いじめが多いクラスが教員の評価に関わったり、いじめの多い学校が校長の評価に関わったりすることはあるのか。テレビのいじめ事件を見ると、いじめを目撃しているにも関わらずクラス内で隠そうとしたり、見えて見ぬふりをしようとしていたりしているんじゃないかなと受け取れる。先生方も仕事として教員をやっている部分もあると思うので、もしいじめの多寡が評価に関わるのであれば、「いじめに気付いていたが、評価が下がるのではぐらかした」等がきっかけで深刻な事態に発展してしまう面もあるのでは、と思った。

【加藤部会長】 今年、東北の人口3万の町で調査をさせていただいたのだが、町の教育の方針で小学校から高校まで全部仲よくなるという取組みを行ったり、子ども一人一人をちゃんと住民が見ることができていたり、日ごろから目が行き届き風通しがよい。このように、市町村の方針や教育長の方針によっても、かなり変わってくる。ゆえに、現在はどのような教育施策を行っていたのか、ということも問われるだろう。

【梶井委員】 いじめの小さな芽を早期発見し報告することの方が、評価に値するのではないかと感じる。

【加藤部会長】 「いじめの数が多いのは恥ずかしいことだ」という空気がまだあるという実態をどうするかですね。いじめがあるのは恥ずかしいことではなく、むしろ早くに相談があったということは良いことであると。近頃はそのような相談が徐々に増えてきているので、その辺りは評価できると思う。

【梶井委員】 相談内容が増えたということよりも、相談してくれる人が増えたということで、これは良いことではないだろうか。

【加藤部会長】 では、審議会の評価はBということによろしいか。主な取組みの中に、子どもの個性・自己有用感について子どもの意見や声を聞けるものを導入する、ということを検討して頂きたい。

(異議なし)

【加藤部会長】 目指す「4年後のまち」の姿は3つ。①発達段階に応じた教育は53.0点、②はコミュニケーションで困っている子どもたち・その保護者に通級指導等を実施して社会適応力が高まっているかについては54.7点、③特別な支援を要する子どもに対して専門の相談員による教育相談が行われていることについては59.7点。平均して55.8点。

指標は3つ。特別支援教育支援員等の配置各校への配置率は、目指す値91.1%に対し、実績値86.2%。ことばの教室等の通級者数は、目指す値が140人以上に対し、実績は104人。相談員に対する相談件数は、目指す値145件以上に対し、実績値は158件でポイントアップとなっている。

それから、市民の役割分担については、取り組んでいない市民の割合が少々高いので、25.6点という評価になっている。

それらと「行政の4年間の主な取組み」を合わせた進捗状況の総合評価は、B評価、つまり「目指すまちの姿が概ね実現されている」となっている。この分野についてはお一人がC評価だが、いかがか。

【幸元委員】 ことばの教室等の通級者数が昨年度より減少している理由について、「個々に丁寧な対応を図ることに重点を置いたことから、運営上通級者が減っている」とあるが、指標3で相談件数が増加していることを鑑みると、相談者がいるにも関わらず対処しきれていないように見える。それに対する手だて等は進んでいるのかどうか解説が欲しかった。

【事務局】 「通級者数を増やす」ことがこの指標の目標になっており、目標値は「25年の数値以上」となっているが、数もさることながら「内容をもう少し充実させて実施していきたい」という現場の意見もあって、数字ではかるといところが少々難しいところでもあるかなとは思う。通級者数が減っているからよくないのかという一方で、相談件数については増えているので。

【加藤部会長】 子どもの数・子どもの学年がどのぐらいかというのも関係してきているのでは、とも感じる。「丁寧な対応」とは一体どういう内容なのか、ことばの教室・通級指導教室エルではどのようなことをしてくれたのか、どのようなニーズがあるのか。これらをもう少し詳しく知りたい。

【梶井委員】 これらの教室というのは、親が自主的に子どもたちを通わせるところなのか、市の方から「ここへ行ってください」という指導があって通うところ、どちらなのか。また、どういう人たちが通っているのか。

【事務局】 学校からも通わせた方が良いかどうかアドバイスはされると思うが、やはり保護者の方の御理解もあると思う。

【梶井委員】 ここへ通いなさい、通ってください、というのを市等から言っているというわけではないということか。

【事務局】 通級された方が良いのでは、という助言を受けても、最終的に通われるかどうかというのを判断するのは保護者の方に委ねられているのかもしれない。強制的にというのは難しい。

通常の教科は普通の教室で受けていただいて、個々のそういう障がいに応じた特別な指導が要る場合は、ことばの教室・通級指導教室エルでフォローしており、また、教師と保護者等が相談されながら通級しているのだと思う。

【梶井委員】 通級該当者がそれほどいなかったから減った、という解釈もあるだろう。

【事務局】 やはり、通級者数というものだけで評価を行うのは難しいかもしれない。

【梶井委員】 難しいですね。

【事務局】 指標の分析は、余り細かくしすぎると非常に煩雑というか、難しいところがある。減ったからだめだとすぐにそのように結論づけるというのは困難かもしれない。ただ、分析は必要であると思う。

【加藤部会長】 特に相談件数が増えている。なので、どのような相談内容が増えているのか等を分析しておいて、その中にことばの教室・通級指導教室エルとリンクしているような悩みはあるのか、早期にそれらの教室を利用する必要があるのか、あるいは、別の内容で相談利用件数が増えたのかなど、様々な要素が関係してくるかもしれない。そのようなことが分かれば、よりいいのではないだろうか。

では、審議会の評価はBということによいか。

(異議なし)

【加藤部会長】 4年後のまちは、①誰でも自由に学習できる環境が整備され、生きがい、楽しみを感じている市民が増えているかについては55.0点。②生涯学習の成果が地域社会に還元される機会が増えているかについては52.2点。平均は53.6点。

指標は3つ。図書館の貸出し冊数については、目指す値が11.3冊に対し実績10.7冊。自主グループによる学習会の開催は、目指す値が236回、実績が221回。これら2つの指標は、いずれも目指す値・実績値が近接している。人材バンク活用件数は、目指す値が400件に対して実績値が569件で、はるかに高い活動状況があるということが示されている。

そして、市民の役割分担は、30.1点。行政の4年間の主な取組みについては、寿大学の充実、寿大学OBの活動、図書館サービスとか、ボランティア活動等、様々なものがなされている。

人材バンクについては活用件数が増加しており、様々な活動への市民参加を促して強化が行われてきている。また、学習カリキュラムの充実を図り、学習成果が還元されているということで、総合的な進捗度評価はCとなっている。

人材バンクの活用件数が大幅に増加しているが、これは、退職を迎えた方の人数が非常に増えたため登録人数も増加したと推測される。

【梶井委員】 増加率がすごいですね。

【加藤部会長】 すごいですね。およそ倍になっているだろうか。今、いろいろなマンパワーがあって、生涯学習という意味でも様々なことができる機会が増えてきている。一方で、「生涯学習の必要性・目的を理解し生涯学習活動を行っている」という市民の役割分担について、「あまり取り組んでいない」と「取り組んでいない」という回答が約6割となっている。市民満足度調査はいろいろな人が対象になっているということで、若い世代など非該当の方も含まれているので割合が高くなっているのかもしれない。また、生涯学習を利用しないという方も含まれているからだと思う。

審議会委員の評価内訳を見ると全員C評価であるが、それで構わないか。

【梶井委員】 去年の評価はBでしたっけ。

【加藤部会長】 はい。今回はCだが、行政に期待するものがより多くなってきているのかもしれない。指標3の人材バンクは、登録された数、それとも実際に活用された数のどちらなのか。

【梶井委員】 指標3の人材バンク活用件数というのは、実際に利用された件数ではないか。

【事務局】 はい。ただ登録された件数ではなくて、実際に活用された件数である。

【加藤部会長】 ならば、活動してくださっているということは、いいことだ。
であるのに、C評価「4年後のまちがそこそこ実現している」なのはどういう意味だろうか。「もっと取り組んでいきたい」という意味なのだろうか。

【事務局】 図書の貸出冊数等のその他の指標数値があまり伸びなかったこともあり、担当課が控え目な評価をしたと考えられる。

【梶井委員】 だが、図書の貸出の利用冊数は減った一方、貸出人数は増えていると記されており「一定の効果はあった」ともある。

【加藤部会長】 また、指標2の自主学習グループによる市民向け学習会については、グループ数が減ったとあるが、グループで学習するのではなく個別で人材バンクに登録し具体的に活動している可能性もある。マイナスが本当にただのマイナスなのかということもそうとも言えない場合もあり、どういう評価になるのか……ということにも繋がるだろう。

審議会評価をこのままでCにしておくか、あるいは、一つ評価を上げて去年と同様のBにするか、いかがだろうか。

【梶井委員】 人材バンクは今まで登録者数は増えてもなかなか活用がされないのが課題であると記憶しているが、今回の大幅な活用数増加を鑑みると、評価しても構わないと思う。去年の審議会評価がBだと聞き、「あ、そうだったかな」と。ならばBでもいいかなと感じた。

【加藤部会長】 Bでもいいような気もする。ほかに御意見はないか。

【村上委員】 今後は高齢化が進んでいくこともあって、自分の身に置きかえたときに「これから生涯学習がどうなっていくのかな」というのが不安だったため、よりよくなってほしいという思いからCとした。

【加藤部会長】 なるほど。もっと期待をしたいという思いを込めて、ということだろう

か。

【村上委員】 はい。

【幸元委員】 グループ数が増えたとか人材バンク活用件数が増えたというところだけでなく、4年後のまち①「生きがいや楽しみを感じている市民が増えている」というところが反映されていたならば、Bでよいと思った。しかし、まだ①が伸び悩んでいるふうを感じる。

【加藤部会長】 では、そのままCということで、伸び代をもっと増やしてほしい・もっと色々してほしいということでCにしたいと思う。

(異議なし)

④No.232 青少年

【加藤部会長】 4年後のまちについて、①「地域、学校、家庭の連携のもと、青少年が生きる力と心豊かな人間性を身につけ、健やかに成長している」が57.4点。②「子どもが安全・安心に遊べて、地域の人たちと交流する場が整えられている」が53.4点。③「地域社会でのリーダーとして積極的に活動できる青少年の育成が進んでいる」は少々低く45.2点となり、50点切った。トータルの平均は52.0点。

次に指標を見ると、指標1「青少年健全育成事業参加人数」は目指す値2,818人で、実績値がそれを大きく上回る5,748人。指標2は「青少年指導委員もよる巡回指導回数」。目指す値209回に対し、実績値329回。巡回して、非行防止・安全確保を目指したということだが、何か悪化したものがあつたのでそれだけ回数を増やした、ということも考えられる。指標3「青少年健全育成団体に対する支援事業回数」は目指す値18回に対し実績値22回で、少しアップしている。

市民の役割「地域で子どもを育てようという意識を持っている」という設問は、40.9点だった。

行政の全体の進捗度に対する評価はB。審議会委員の評価もBが多かったが、「青少年の健全育成の拠点である山麓公園での指定管理者がかわり、食堂メニューが2倍ほど高くなったらしく事業への影響が心配である」という意見があつた。

【梶井委員】 私が書いた意見である。以前は山麓公園にふらっと遊びに行ったら、500円から1,000円ぐらいの間で、ちょっとした定食やうどんなど、軽くお昼が食べられた。まだ自分には行ってないのだが、リニューアルされた食堂のメニューが1,000円以上のものや1,000円付近のものばかりで青少年が買いやすいような安価なメニューがほとんどないという話をきいた。

子ども会の育成連絡会に役員として関わっているのだが、毎年、山麓公園でジュニアリーダーの研修キャンプを1泊で行っている。その際の食事も単価が高く、予算が決まっているので、ほかにやりたいことがあってもできない。となると、参加者から徴収する金額を少し増やさなければならぬという状況になりつつあるので、ほかの団体の方々にも何らかの影響が出ているのではないかと思い心配している。

なので、青少年メニューのような青少年団体向けの別メニュー等があってもよいのではないかと感じている。

【事務局】 食堂自体は、指定管理の中でも自主事業で指定管理者が行う事業となっており、市からやりなさいということではないのだが、ただ、やはり利用される方とのバランスがある。

【梶井委員】 家族連れで行ったら、きっと値段に少し驚いてしまう。

【加藤部会長】 青少年が食べるメニューなら、500円以内が妥当ではないか。大学の定食でも一番高くて450円、安いものなら300円なので、調査を行い改善するか何かしていただきたい。

【幸元委員】 指標において、青少年指導員による巡回指導回数が上がっているが、これは目指す「4年後のまち」の姿のどの部分に当たるのかな、という疑問がある。「4年後のまち」は青少年自身が生きる力等を身につけて健やかに成長していることであつたり、地域の人たちと交流する場が整えられていることであるので、巡回指導回数が多いからというのは評価には値しない感じがする。

【加藤部会長】 なぜ回数が増えたのだろうか。

【事務局】 青少年指導委員の方に対し、1回の巡回につき巡回カードを1枚提出してもらい、どういった指導をしたかというコメントも書いていただいております。

り、そこで件数を把握している。指標数値は、指導を行った回数ではなく巡回を行った回数なので、市民等からなる120人の青少年指導委員が1人につき2～3回巡回を行っているという計算になる。

【加藤部会長】 今回は概ね2.5回指導巡回を行ったということか。

【事務局】 ゆえに、人もどんどん増やしている。この取組み自体は、やはり「地域住民で青少年を見守っていこう」というものなので、この観点から、巡回回数が増えるということについては、ある程度は評価できると思う。

【加藤部会長】 指導した回数ではなく、巡回した回数か。指導回数だと思ったので、指導しないといけない子どもが増えたのではないか、どういうことで指導を受ける子どもが増えてきたのか、という心配を逆に感じてしまった。巡回した回数ならば、指導されねばならないような子ども・指導を受けるような言動が大きく増えたというわけではないのだろう。

【事務局】 ただし、同じ状況でも指導したか・しなかったかというのはあるかもしれない。

【梶井委員】 指導する・しないの基準が難しい。

【事務局】 なので、指導されるような事柄が頻繁に起こったのかどうかということも分からない。

【梶井委員】 それこそ先刻のいじめか・いじめじゃないかの瀬戸際とか、それと似たものかもしれない。指導するに値するか・値しないか、非行か・非行じゃないか。

【加藤部会長】 悪い子どもが増えている可能性もあるが、もし「元気？」とか「もう23時やで、はよ帰りや」等の声かけも全部指導に含めているのならば、そんなに現状は変わってないのかもしれない。

【事務局】 指導のうち、21・22時ぐらいになって家に帰らない青少年に「はよ帰りや」と声をかけるものが大半であると思う。

【加藤部会長】 それと、いまニート対策・ひきこもりの若者支援事業を県レベルでやっていると聞いた。

【幸元委員】 社会福祉協議会が委託を受けてやっている。

【加藤部会長】 「行政の4年間の主な取組」には、若者の自立のための支援を推進する若者自立無料相談事業の回数が46回とあるが、同じ人が何回も来ており

それもカウントされているのか。利用人数は実質何人で、相談に来た青少年のうち20歳未満はどのくらいいるのか。もし今後事業者が撤退したとき、事業を続けるために市独自で予算計上する必要があるため、利用人数の把握は重要である。

また、自立したくてもできない若者がまだ埋もれている可能性もあるかもしれない。精神的につらい状況で自立したくてもできない若者もいる。精神保健を扱う保健所や市の保健課とタイアップして、連携しながら何か取組んでいるのだろうか。

【事務局】 ニートについては健康課が取組んでいるが、生涯学習課と健康課とはタイアップはしていない。

【加藤部会長】 本当は精神保健の方でする必要がある。

働きたくても働けずひきこもってしまう青少年の中には、ちょっと鬱的になっていたり、自殺企図をしたりという若者も含まれている。そうすると、ただ「行きなさい」と言うだけではなくて、心の支えが必要である。だから、「こういう場所があるから、就業をね」といきなり言わず、話を聞きながら職業に結びつけてあげるといのはすごく大事なことで、こつこつとしたプロセスがちゃんとできているのかが要となる。

学校というのは割と、義務教育が終わったら放り出してしまう。なので、なかなか保健所等でも把握しにくい。ひきこもっている子どもや若者について、ある程度情報が入っているのであれば、やはり各機関がタイアップして支えていくということは早期にやった方がいい。

【梶井委員】 サポートセンターというのは何歳頃まで利用できただろうか。駆け込み寺ではないが、子どもや若者たちが心の悩みを聞いてほしいときに行ける場所があればいいと思う。

【事務局】 教育支援センターでそのような取組は成されているが、おっしゃられるように年齢制限があって、それは中学校までだったかと思う。

【加藤部会長】 15～17歳で高校へ行けていなかったり中退したりして、15・16歳が割と手薄になっている。

【梶井委員】 そうですね。高校に上がって、何か環境が変わって行きにくくなって、ということもある。

【加藤部会長】 まさにそういうケースがある。どうフォローするかも含め、ニート対策となる就労支援や若者自立無料相談事業と、16歳から18までの教育相談である青少年教育相談事業がうまく繋がっている。ただ、予算計上しておく必要があるということであれば、若者自立無料相談事業を利用した実質的な人数や、どういう形のニーズがあるのかというのは把握しておいてもらうということになるので、生涯学習課がやっていることかなとは思う。

これについては審議会評価Bでよいか。

(異議なし)

⑤No. 241 文化活動

【加藤部会長】 目指す「4年後のまち」の姿は3つ。①文化活動に活発に参加する市民が増え豊かな感性が育っている、が56.6点。②市民と行政が協働し、生駒らしい魅力ある文化の創造が進んでいる、が51.0点。③生涯学習施設で様々な文化・芸術に触れ合える機会が増えている、が55.6点。三項目の平均が54.4点。

指標は2つ。指標1「市民の成果発表事業の参加人数」は、目指す値18,700人に対し実績値が15,601人で、約3,000人下回っている。去年よりも人数が大幅に減少しているが、これはいくつかのイベントを統合したためであるようだ。指標2「生涯学習施設で行う文化事業の満足度」は、目指す値93.7点に対し実績値が94.1点。指標3「生涯学習施設の利用者数」は、目指す値が1,050,000人に対し、実績値が約1,080,000。つまり目標を約30,000人上回ったことになる。

それから、市民の役割分担は文化や芸術に関心を持っているかどうかだが、得点は46.6点で、「取り組んでいる」「少し取り組んでいる」「十分取り組んでいる」という回答のパーセンテージが60%を超えている。

さらに、行政の4年間の主な取組では、参加者を募りながら様々な取組みを行っていることが伺える。

ところが、全体的な行政の進捗度はCとなっている。これはなぜかというと、フェスタの参加人数が目標に達していないからとのことである。これは、今まで行われていたいくつかのイベントを統合したことにより、開

催回数が減ったからか。

【梶井委員】 参加人数が減った。

【加藤部会長】 3回開催すれば3回分の人が集まっていたのが、統合により人が1回分の人数になってしまうからか。

【梶井委員】 書き初め大会がなくなったのが大分減ったのではないかと私は思う。統合したと言っているが、実質、市民目線で言えば、書き初め大会がなくなったと多分思うのではないか。

【加藤部会長】 書き初め大会はジュニア・アートフェスタに含めず、書き初め大会単体の方が参加・来場しやすかったかも知れない。

【梶井委員】 そのように思われる。

【加藤部会長】 これはなぜ統合したのだろう。前年度より約3,000人ほどの大幅な減少が見られる。例えば、複数の開催日程や開催イベントの内どれかなら行けるといふうだったのが、統合により選択肢が1つ絞られてしまい行けなくなったのかもしれない。そのような人々が3,000人いるということだろうか。

統合をやめて開催回数を増やして参加・来場チャンスを増やすのがいいのか、統合し会場費支払を1回で済ませ経費節減を行うのがいいのか。これは予算の関係次第だろう。

【事務局】 統合して、また翌年に再分割するということはまずしないと思う。

【梶井委員】 「書き初め大会がなくなったと多分思う」と先ほど述べたが、お知らせの仕方等を工夫した方がいいのではないだろうか。書き初め大会がジュニア・アートフェスタに統合されたが、結局、作品展の中の「書道の部」というくくりになっているそう。

【幸元委員】 ジュニア・アートフェスタの催しごとの参加人数が分かれば、トータルで見て、何の催しの参加人数が減ったのか分かるのではないか。

【梶井委員】 個別に分析していくと、通常どおりに進捗できているかが分かるだろう。

【幸元委員】 26年度目標値より単に約3,000人減っているように見えるが、それがいつどの催しの動向が変わってこのような結果になったというのが分からない。

【梶井委員】 これを見ると、全体的に3,000減ったように見える。催しごとの個別の

変化を見て、どこが特に減ったのか知りたい。それが分かれば、より分かりやすい。

【幸元委員】 評価しやすくなる。

【加藤部会長】 そうですね。

この分野の審議会進捗度評価はCでよいか。前年度はBだったが、少し参加人数が減ったことについて色々な分析も必要であるし、それから、さらに人数を前年度より増やすということであれば、広報、周知方法の分析・工夫も更に必要となる。そういった意味で、Cにしたいと思うが、いかがだろうか。

(異議なし)

⑥No. 242 歴史・伝統文化

【加藤部会長】 目指す「4年後のまち」の姿は2つ。①住んでいる地区に愛着を持つ市民の増加は62.6点。さらに、②市民が生駒の歴史文化に興味を持ち文化の担い手となることについては45.6点。

指標は3つ。指標1「歴史文化友の会の会員数」は、目指す値70人に対し実績値59人。指標2「生駒ふるさとミュージアムの来館者数」は、目指す値18,000人に対し実績値12,515人。指標3「歴史文化系講座聴講者数」は、目指す値500人に対し実績値863人で、大幅にアップしている。

市民の役割分担は、自分の住んでいる地域の歴史・伝統文化に関心を持ち尊重しているかについて、42.8点となった。

そして、行政の4年間の主な取組では、ふるさとミュージアム等について述べられている。ふるさとミュージアムの来館者が59人というのは、非常に少ない。せっかくいい会館があるにも関わらず、PR不足だった、と。そのために、行政による分野全体の進捗度はCとなっており、PR強化の必要が掲げている。

歴史文化の聴講数が増えたというのは、団塊の世代の方等が生駒の歴史文化を色々知りたいということで聴講されたと思うのだが、ふるさとミュージアムに行く授業を設ける等、ふるさとミュージアムを学校の中で位置

づけて来館者を増やすということも可能なのではないだろうか。

【幸元委員】 校外学習で、何年生になったら必ずふるさとミュージアムへ行くというふうになれば、生駒の歴史を学ぶということにもなり良いのではないかという意見が昨年度出たと思う。

【加藤部会長】 はい。子どもの人数が減っているにしても、幼稚園児・保育園児も行けることや市民に対してふるさとミュージアムの存在をアピールするなど、周知等を工夫することで、来館者数の増加が期待されるのだが、現在どうなっているのだろうか。

【事務局】 学校とも連携して取組んでいるようだが、カリキュラムの関係や授業の関係等でまだ来館できないというケースもあると思う。行政の4年間の主な取組の課題にも記載されているが、学校や団体での来館者数が少なかったことと、先述のようなカリキュラム・授業の関係でまだできていないことが理由として1点。あともう1点は、開館の遅れである。計画を策定するときは、当初の会館予定から見積もって来館者数の目標値を設定したが、開館時期が半年ほど遅れた。元々、来館者数の累計で目標値を設定していたので、最初の半年間に見込んでいた人数が累計から抜けてしまったというのが、目標値から下がっている主な理由である。

【加藤部会長】 なるほど。ならば、来館者数の推移は実質悪くないわけか。

【事務局】 平成25年の目標値3,000人というのは、半年開館が遅れた分ここだけを現状値で設定した。目標値は累計来館者数なので、開館の遅れを考慮し26年度以降も数値を見直さねばならなかったのだが、当初の目標値のままにしていた。

【梶井委員】 ならば、全部ずれてくる。

【事務局】 今度、後期基本計画を1年延ばすということで、修正させていただきたいと思っている。

【加藤部会長】 そうですね。開館の遅れもあったので、今後は目標来館者数を修正してもらえれば、と。

生駒歴史文化友の会の会員数について、26年度は59人とのことだが、これは講座を受けた人が会員になっていただくという形なのか。

【事務局】 これは毎年更新していただくようになっている。検証シートにも記載し

たが、1年間は継続して会員登録するものの、次の更新時期に更新をうっかり忘れてたり等でなかなか人数が維持できないこと等が課題である。

【加藤部会長】 登録は無料か、それとも有料か。

【事務局】 年間1,000円だったように思う。

【加藤部会長】 子ども会員や学生会員、準会員や会員など区分を増やしたり、ニュースレターだけ欲しいという人の場合に、会員登録料を少し安くしてはどうか。

【事務局】 元々が1,000円ほどなので難しいと思う。会員区分があるのかについてはまた確認しておく。

【加藤部会長】 指定管理者によって運営されているので、PRを行わないと指定管理者としても困るだろう。会員特典が少なかったということなので、そのあたりもいろいろ考えていただくということ。

去年の審議会評価はBだった。もう少し指定管理者にも頑張ってもらい盛り返しを続けていただくという意味でも、今年の審議会評価はCでよいか。

(異議なし)

【加藤部会長】 言い残したことや感想等あれば一言ずつお願いします。

【幸元委員】 指標と主な取組で齟齬があったりして進捗度判定に困る部分や、行政の分野全体の進捗度を厳正に評価している担当課もあれば甘く評価している担当課もあり、担当課によって評価の厳しさにばらつきがあったので、そのあたりをもう少し統一していただけると判断や目安もつけやすいのかなと思った。

それと、市民満足度調査について、アトランダムな抽出によって選ばれた人たちの回答に拠っている部分であり、主観に頼る部分なので、どの程度、重視させていただいたらいいのかなと悩んでしまった。

【加藤部会長】 ありがとうございます、貴重な意見だと思う。満足度は絶対尺土ではなく個人の物差しなので、参考程度ということになるのだろう。どのぐらいの層がどういう形でやっているのかにも左右される。なので、本当は、回答した母数がどのような人で構成されているのかというのが分かれば、より嬉しい。構成の年齢層や男女比によって、多分、答え方も変わってきているかもしれない。

【事務局】 満足度調査は現在集計中。年齢等の属性質問も別に行っており、子ども

さんはおられますかとか、おうちに高齢者の方はおられますか等の設問も
設け、クロス集計も行っている。

【加藤部会長】 村上委員、どうぞ。

【村上委員】 初めて参加させていただいて、こういう御意見を伺えたことがすごくよ
かったなど、今、思っている。ありがとうございます。

【加藤部会長】 いろいろ、他市での経験も踏まえて、また御意見をいただければ。

【村上委員】 はい。そういう意味では、やはり生駒はレベルが高いなと思った。

【加藤部会長】 梶井委員、どうぞ。

【梶井委員】 一通り、意見や言いたいことを言うことができた。ありがとうございます
した。

【加藤部会長】 実際に生駒市で活動して、地元の中のいろいろな情報を持っていただい
ているので、そういうことも含めた観点からの御意見をまたよろしくお願
いいたします。

以上で本日の案件を終了する。

—— 了 ——